

目次

序	栗林忠男	v
商法における立法者の意思	加藤修	一
剰余主義・引受主義のドイツ的構造と根拠 — 立法史的研究の方法論的定立のために —	斎藤和夫	一三
近時における企業会計法の展開	宮島司	七二
営業譲渡と競争禁止義務	山本爲三郎	八九
会社組織および活動の柔軟性 — フランスの簡易株式制会社について —	鈴木千佳子	一二三
著作者保護と著作権法	小宮山宏之	一三七
議員立法によるストック・オプション制度管見	阪埜光男	一七一
近時最高裁判決と民法七二四条後段の二〇年期間	内池慶四郎	一八五

反應・横槍法人論……………	倉沢康一郎……………	三〇五
いわゆる執行役員制度について……………	竹中正明……………	三二
銀行により不渡付箋の付された手形の裏書と手形法二〇条一項……………	近藤龍司……………	二四
「会社業務執行役員制」考……………	大賀祥充……………	二六
登記簿上の取締役の対第三者責任に関する一考察……………	黄清溪……………	二九
陸上物品運送人の損害賠償事由と賠償額の関係……………	久留島隆……………	三一
商法における計算書類開示制度の意義……………	島原宏明……………	三七
津田利治先生略歴・主要著作目録……………		四一